



空き店舗を活用した 高校生の放課後自習室

渋川市 教育委員会 生涯学習課

渋川市では昨年度末、渋川駅前通りの空き店舗を活用して、市内在学及び在住の高校生が放課後の自主勉強に利用できる「高校生の放課後自習室」(愛称 すたでいばんく)を整備しました。

この施設については、国の臨時交付金を活用し、空き店舗の解消事業の一つとして商工振興課が中心となり整備を進めてきたものです。

整備に当たっては、市内に在学する高校生のニーズを把握するとともに、より快適で健全な施設を目指すため、高校生と関係機関が連携を図りながら進めることとしました。市内の4高校より各3名ずつ選出された12名の高校生と関係機関からの出席者が5回の連携会議を重ね、「理想とする自習室のあり方」「施設利用上のルール」などを検討し、さらに現地確認をした上で意見や要望を施設の整備に反映させました。

また施設の愛称である「すたでいばんく」ですが、施設を利用する高校生に命名してもらうべく、4高校に募集依頼した結果、渋川高校のみなさんの案を採用させていただきました。

「すたでい(Study)」は勉強する、「ばんく(Bank)」は銀行という意味のほかに、「貯蓄する」、「預ける」という意味もあります。簡潔に表記でき、勉強するイメージが表現されている、そして長く親しみの持てる愛称を考えていただいたと思います。

この「すたでいばんく」は、渋川駅から徒歩約5分の民間建物の2階を利用したものであり、定員は約50名で管理人も常駐しています。外階段を上りドアを開くと、いつも多くの高校生の姿が見えます。しかし、そこには余計な雑音など存在しません。わたしたち職員の歩く靴音だけが響き渡る静かな自習空間が形成されています。次代を担う高校生一人ひとりが、黙々と自らの目的を持って勉強に励む姿は頼もしい限りです。

こうした勉強に集中できる雰囲気作りを考慮しつつ、施設の整備にご尽力いただいた連携会議のみなさまに深く感謝いたします。また、今年度から運営を引き継いだ生涯学習課としても、利用者である高校生のニーズも聞きながら、より良き施設であり続けるよう、しっかりと「すたでいばんく」に携わっていきたいと考えています。

